

青森市議会だより

第3回 定例会の報告
令和7年8月27日～9月29日

青森市議会議員：自民クラブ

柿崎 孝治



可動していた頃の「平和公園の噴水」



事務所：〒038-0058 青森市羽白野木和104-4 電話番号：017-752-9264 FAX：017-718-5675 携帯番号：090-4887-1907

公園施設「平和公園の噴水」について

- Q** 平和公園の噴水は、公園のシンボルともなっている施設であるものの、現在故障中とのことで、稼働していない状況は何とも寂しいものがあります。公園利用者からは「故障した施設がそのままになっているのは景観上好ましくない。どうにかならないか。」との意見も出ています。噴水前に設置されている看板には「故障中」との表記がされているだけで、どこがどのように故障しているのが明らかになっていません。
- A** 噴水施設は、直径約26mの噴水池に約7mの中段噴水池、約5mの上段噴水池の3段で構成されている大型噴水であり、稼働時は、水の様々な躍動が生み出す水景が公園利用者を楽しませるとともに、平和公園のシンボリックな施設ともなっていました。噴水施設の現在の状況としては、昨年度の稼働前点検において、水を圧送するための水中ポンプ全8基のうち5基が経年により故障していたことに加え、ポンプから噴水ノズルまでの配管に経年劣化により生じた多数の穴が空いていることを確認したところであり、正常な稼働が困難であると判断したことから、令和6年度から運転を休止している状況にあります。
- Q** 平和公園の噴水施設が現在休止している原因については、ポンプと配管が故障していることがわかりました。設置後50年近く経過していることもあり、ポンプは全部で8基あるうち5基の故障、噴水ノズルまでの配管についても多数の穴が空いているという状況は、設備の大部分が故障している状態であると推定されます。仮に噴水施設を修繕するとなった場合、その費用はどれくらい要するのでしょうか。
- A** 平和公園の噴水施設の修繕費用としては、ポンプ1基あたり約600万円の費用を要することに加え、配管の穴埋めや一部入替などに約800万円、その他噴射ノズルなど稼働のために必要な調整作業などを含めると、概算で約4,000万円の費用を要するものと見込んでいます。現時点で確認できていない経年劣化や故障が潜在的にある可能性が高いことから、修繕費は更に増大する可能性があるかと想定されます。
- Q** 噴水施設の故障前における水道使用料などのランニングコストをお示ください。
- A** 5月下旬から10月下旬までの約5ヶ月間を、朝8時から夜9時までの13時間稼働している施設となっています。故障前の令和5年度の実績としては、電気使用料として約300万円、水道使用料として約200万円、高圧受電設備管理費や施設点検費用、水槽清掃費として約140万円であり、年間約640万円の費用を要しています。



平和公園



要望

今回取り上げた平和公園の噴水施設はじめ、私がよく訪れる野木和公園でもそうですが、市内全域で公園施設の老朽化が進んできている状況であると考えます。歴史がある公園は、これまで多くの方々にご利用されてきており、利用した際の思い出や、公園に対する思いなどそれぞれの様々な思い入れがあると思われま。また、公園が持つ歴史的な意味合いや背景も非常に重要であると考えます。思い入れがある公園施設が老朽化したり、休止したりしていることは、非常に寂しいものです。平和公園の噴水施設をはじめ、当市の公園施設のリニューアルを検討するにあたっては、将来の少子高齢化社会を見据え、時代に合った施設のあり方や財政事情など、様々な要素を踏まえた検討が必要であると思いますが、公園を利用される市民の方々の思いを汲んだ噴水施設となるよう、検討を進めていただきたいと要望いたします。※「平和公園の噴水」については東奥日報11月1日朝刊に掲載がありました。

内水氾濫について

- Q** 今年も各地で、突然の大雨、線状降水帯による災害が発生し報道されています。これから台風シーズンを迎え当市でも洪水被害、都市部での内水氾濫が起こりうることも考えられます。雨水出水浸水想定区域の指定に向けた、これまでの検討状況をお示ください。
- A** 近年、気候変動の影響により全国各地で水災害が激甚化・頻発化し、治水政策を抜本的に見直す必要があったことから、令和3年度に水防法の一部が改正され、下水道等による浸水対策を実施している全ての地方公共団体が、雨水出水浸水想定区域（いわゆる内水氾濫区域）を指定し、想定区域図を作成・公表することとなりました。令和6年度及び令和7年度は国がマニュアルで示している想定最大規模降雨・1時間当たり150ミリメートルでの浸水シミュレーションを実施してきたところであり、今年度末の雨水出水浸水想定区域の指定と、同区域図の作成・公表に向けて、作業を進めています。
- Q** 雨水出水浸水想定区域を指定後、内水ハザードマップはどのように作成・周知されるのかをお示ください。
- A** 本市では、雨水出水浸水想定区域の指定・公表後に、当該区域図に避難所等の情報を加えた内水ハザードマップの作成を予定しています。この内水ハザードマップについては、青森市ホームページに掲載するほか、本市がこれまで作成・配布してきた洪水ハザードマップや津波ハザードマップなどと同様に、冊子での配布も検討しているところであり、市民や事業者の方々へ広く周知したいと考えています。

青森駅周辺地区について

Q 7月に入って晴れの日が続き、更に30℃を超えた日が24日もありました。8月に入ってからも晴れて、30℃超えの日が続いていました。青森駅自由通路の構造は山手側はすべてガラス張りで日光が入りやすく自由通路が明るく広々とした半面、夏は暑く、冬は寒いというデメリットがあるように思えます。今年も昨年と同様、晴れの日・気温が高い日が続く自由通路の室温は下がらない状態が続いていました。青森駅自由通路において実施した暑さ対策の内容についてお示しください。

A 青森駅自由通路は、例年、青森ねぶた祭開催期間中は多くの観光客でにぎわい、特に祭り終了時間が近づくと帰りの電車を待つ方々で改札口前から自由通路2階に行列ができ、それに伴い自由通路内に熱気がこもり、利用する方にとっては蒸し暑い状況となることがあります。このことから、この問題を共有するJR東日本盛岡支社からの提案と協力により、社会実験の一環として、暑さ対策を実施することとしたところです。具体的には、JR東日本盛岡支社が8月2日から7日までの6日間、自由通路2階のガラス張りとなっている南側に、排熱を発生しない気化式冷風機6機と扇風機5機を設置し、自由通路内において冷風を送風したところです。この気化式冷風機の設定により、自由通路内の温度が大きく低下するものではありませんが、自由通路を利用する方に対して、体感温度を下げる一定の効果があつたものと考えています。



青森駅自由通路

Q 青森駅西口駅前広場のトイレについて、夜間における長時間利用など、不適切と思われる使用が見受けられますが、市ではどのように管理しているのかお答えください。

A 青森駅西口駅前広場内には、男性用トイレと女性用トイレのほか、バリアフリートイレを設置して、24時間利用可能となっています。当該バリアフリートイレの不適切と思われる利用については、本市では抑止対策として、7年4月から多言語で記載した適正使用の啓発ポスターを設置しており、設置後は、当該トイレ清掃の委託業者から、目的外の使用や長時間の利用者が減っているとの報告を受けていることから、本市としては一定の効果を上げているものと認識しています。また、西口駅前広場を巡回している西部交番においては、同広場周辺の巡回強化をしているとのことでした。しかしながら、依然として夜間にバリアフリートイレ内に泊まり込むなどの不適切な利用がみられることから、本市としては、引き続き不適切な利用の抑止対策について研究していくとともに、今後も警察等の関係機関と連携し、適切な管理に努めてまいります。



青森駅西口駅前広場のトイレ

要望 夜間の対策は見直しが必要だと思えます。今後、多目的トイレに暖房が入ると、暖を取りながら泊まり込むことが可能になり、昨年と同様になりかねないという懸念があります。それから、トイレに潜んでいた時に清掃員が対応するマニュアルを作成することも必要と考えます。夜間は多目的トイレのみの閉鎖が望ましいと思えます。



写真1

写真1は雨水が床に溜まった青森駅と青森駅東口ビルの接続部分の通路です。左側矢印は青森駅階段・エスカレーター側。右側矢印は青森駅東口ビル側です。上の矢印部分から雨水が入り込み床に雨水が溜まっています。

写真2は8月17日、青森駅階段から青森駅東口ビルの床を映した写真になります。接続部分の通路から駅東口ビル、ラビナと&ラビナの間にまで雨水が流れ込み、職員が流れ込んだ雨水を除去している写真です。青森駅側は距離も短いのですが、青森駅東口ビルの床は滑りやすい状態になっていることがお分かりになると思います。また、深夜・早朝にも大雨警報が何度か発令し雨水が溜まっている状態の時もありました。人員が少ない時間帯、深夜・早朝の対応



写真2

の検討をお願い致します。また、建物の隙間からの雨水の入り込みですが、いろいろ事情があると思えますが対応をしっかり行っていただきたいと要望いたします。



写真3

「鳴り物入り」で設置された、賑わいのある空間。&ラビナ3F「そらうみテラス」ですが今年は連日閉鎖されたままになっています。

写真3は現在の状況です。加工写真になりますが、左側には3Fにある「そらうみテラス」の専用インフォメーションです。「当面の間、閉鎖いたします」と告知されています。右側の横長の写真は「そらうみテラス」入口のガラス面から映した広々としたテラスの写真になります。前方に青森ベイブリッジが見えています。昨年は平日の雨以外の日は開放され、土・日・祝日は各種イベントも開催されて新しい賑わいの場所として集客がありました。本市としても来年度からは「そらうみテラス」の開放をしていただくよう関係者に働きかけていきたいと思えます。



開放されていた頃の「そらうみテラス」

森林博物館改修事業について

Q 森林博物館は経年劣化でかなり傷んだ箇所が確認され、かねて改修が望まれ、念願かなって昨年度8月から森林博物館の西側から改修工事が実施されました。昨年は改修工事が行われていた際、地域の皆さんはどのように改修されるか、希望と不安が入り混じった想いで見守っていたことを覚えています。今年度行われている第2期工事の概要についてお示しください。

A 明治期からの経年変化などによる腐食や劣化が著しく、雨漏りも生じたことから、森林博物館を西側・中央・東側の3つの工区に分割し、屋根の葺き替え、外壁の一部交換や再塗装、窓の交換及び窓枠の再塗装等の改修工事を実施することとしたものです。今年度実施している第2期工事については、本年5月から着工したところであり、現在は、森林博物館中央部分の屋根の葺き替え・外壁及び木製建具の塗装を行っており、予定どおりに進んでいます。

要望 若い人達、主に高校生と大学生に森林博物館の活用の仕方について意見を求めたところ奇想天外な意見がありました。一つに、建物が古い洋式の建物であり、前庭もありコスプレイヤーの聖地にする。だめならコスプレの撮影会の場所として紹介する。撮影スポットとして隠れた聖地として魅力がある、インスタ映えしそうな箇所・場所がたくさんある。二つに、どこかの展示室を改装してカフェをやってほしい。落ち着いた雰囲気でも勉強や読書ができそう、その場合はWi-Fi完備やスマホやパソコンの充電もできるようにしてもらえれば老若男女の集客ができるのではないかと。私には思い浮かばないことですが、若い人達から、このような二つの要望・意見があったことをお伝えいたします。

所見や要望など 今年度の危険防止対策の囲いは、ずばり青森開港400年についてです。正面玄関付近には大きな「みなとまち・あおもり誕生400年記念ロゴマーク」、続いて「開港400年・まちづくり400年」の説明、そして『「青森開港400年」を記念して制作された大型の「ステンドグラス風ねぶた」3枚です。青森が誇る伝統文化「ねぶた」と、西洋の「ステンドグラス」の美しさを融合させたこのモチーフは、伝統を守りながらも新たな価値を創造していく青森の姿を象徴しています。』現在実物は、アスパム13階の有料展望台で見学できます。ラッピングバスや、駅前アートギャラリーなどパネル展示(終了)で見ましたがこのような大きな「ステンドグラス風ねぶた」は迫力があり、すばらしいと感じました。このようにお金をかけ、迫力のある「ステンドグラス風ねぶた」は多くの市民のみなさんに見ただくためPRが必要と考えます。下旬には開港400年の大きなイベントが目白押しです。青森市森林博物館のイベントと一緒にPRし、合わせて入館者数も増やしていただければと思います。特にインバウンドのお客様を呼び込んでいただければ嬉しいです。

